

三笠ジオパークにおける小中一貫教育の支援活動

Activity support for the educational continuity from primary through early secondary levels in the Mikasa Geopark

栗原 憲一^{1,2}・新居 忠浩³

- 1 三笠ジオパーク推進協議会, 〒068-2192 北海道三笠市幸町 2 番地 三笠市企画経済部商工観光課内
- 2 三笠市立博物館, 〒068-2111 北海道三笠市幾春別錦町 1-212-1, EMail: kurihara582@city.mikasa.hokkaido.jp
- 3 三笠市企画経済部企画振興課政策推進係, 〒068-2192 北海道三笠市幸町 2 番地



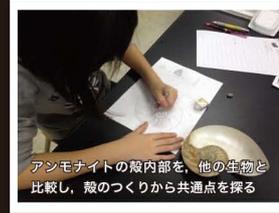
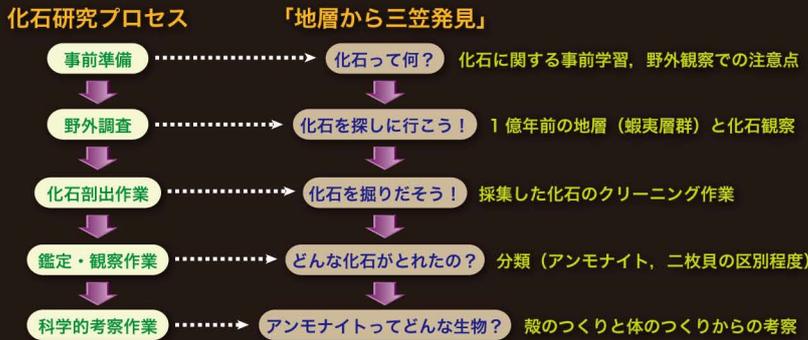
1. はじめに

三笠ジオパークのエリアである三笠市では、平成 17 年度より小中一貫教育を実施している。この取り組みの中には、地域の歴史、自然、産業等について学ぶ「地域科」と呼ばれる科目がある。この科目は、地域の素材と人材を活用しながら、地域全体で子ども達を育て、郷土愛の醸成を図ることを目的としており、博物館学芸員が講師を務めるなどしている。

現在、この「地域科」の中に「ジオパーク」の要素を組み込む検討が進められており、昨年、小中学校の教員と議論を重ねながら、試験的ではあるがジオサイトを活用した授業を行い、小中学生用のガイドブックも作成した。そこで本発表では、これまでの「地域科」で実施されてきた博物館活動との連携及び近年のジオパーク活動との連携について報告する。

2. 「地域科」と博物館活動との連携

三笠市立博物館は、三笠市立岡山小学校 5 年生を対象に、化石について学ぶ学習「地層から三笠発見」を年 15 時間担当している。この授業では、化石研究と同じプロセスを模擬的に体験できる授業を通して科学的なモノの考え方(プロセス)を養い、同時にアンモナイトなどの地域資源についても知ってもらうことをコンセプトにしている。



「アンモナイトは〇〇の仲間」を知るのではなく、「なぜ、〇〇の仲間なのか?」を知る

3. 「地域科」とジオパーク活動との連携

小中一貫教育における「地域科」は、小学校 3 年生から中学校 2 年生までカリキュラム化されている。平成 25 年度より、三笠ジオパーク推進協議会は、「地域科」と「ジオパーク活動」との連携を模索するため、「地域科」に関する教育研究会に参加し、地域科担当教員と議論を重ねた。その結果、ジオサイトやジオストーリーを活用した授業が試験的に取り入れられ、特に、三笠市立三笠中学校では、中学校 2 年生において「ジオパーク解説員になろう」という小学校から継続的に学んだ地域の特徴を発表する授業が行われた。また、このような授業を支援するため、「小中学生用ガイドブック」を協議会で作成した。



毎月 1 回の「地域科」教員研究会に事務局も参加



通常の授業(理科・社会等)でも使えるように、教職員用の索引検索表も作成



「地域科」という既にカリキュラム化された授業の中にジオパークの要素を組み入れる

4. 今後と課題

今回、「地域科」のカリキュラムの中に、新たにジオパークの要素を取り入れる試みが行われた。特に、「ジオパーク解説員になろう」は、これまでの「地域科」の取り組みを否定することなく、その集大成として位置づけることができる内容になると考えられる。しかし、まだ正式な「地域科」のカリキュラムとしては採用されていないため、今後も現場の教員と議論を重ねながら、継続的かつ安定したジオパーク活動を「地域科」の中に組み込ませていく必要がある。